

## 大円道向遺跡調査成果の概要

- 1 遺 跡 名 大円道向遺跡（おえどむかいいせき）
- 2 遺跡の種別 集落遺跡
- 3 遺跡の時代 弥生時代、平安時代～鎌倉時代
- 4 所 在 地 淡路市中田
- 5 調 査 原 因 （二）志筑川水系志筑川広域河川改修事業
- 6 調 査 主 体 兵庫県教育委員会
- 7 調 査 機 関 （公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部  
山田清朝副課長、大本朋弥技術職員
- 8 調査の概要
  - （1）志筑川に隣接する約 550 m<sup>2</sup>の範囲を、7月中旬から調査を実施している（9月前半に終了予定）。
  - （2）大円道向遺跡は、志筑川によって形成された自然堤防上に立地する。
  - （3）弥生時代前期と平安時代～鎌倉時代にかけての集落遺跡である
  - （4）弥生時代前期（約 2,300 年前）の遺構と遺物
    - ア 遺構：柱穴、土坑、溝状遺構
    - イ 遺物：土器（甕・壺）、サヌカイト製の石鏃など
  - （5）平安時代～鎌倉時代の遺構
    - ア 掘立柱建物跡 1 棟
- 9 ま と め
  - （1）今回の調査で比較的多くの遺構・遺物が発見されたことにより、これまで不明であった遺跡の実態が明らかになった。
  - （2）周辺には、横入遺跡、天神遺跡、田井B遺跡など、本遺跡と同時期である、弥生時代前期の集落遺跡が存在している。

このことと今回の調査の成果は、淡路市の東岸域における弥生文化の受容が、低湿地を含む海浜接地の平野部から開始されたこと示す根拠をさらに補強する結果となった。



調査区全景（南西から）



溝内の土器の発掘状況



出土した弥生時代前期の土器